

事業の背景

障害特性と就労上の課題

障害特性

- アルバイトなど就労の経験に乏しく、自分の就労準備性に関する情報が不十分である
- うまくいかない原因に気づくことができない
- 経験をうまく振り返ることができない
- 成功につながる方法を知らない

就労上の課題

- 職場での人間関係がうまくいかない
- 仕事の要求水準に応えられない
- 仕事が長く続けられない
- 離転職を繰り返してしまう



悪循環が続く

障害特性と必要な支援

障害特性

- アルバイトなど就労の経験に乏しく、自分の就労準備性に関する情報が不十分である
- うまくいかない原因に気づくことができない
- 経験をうまく振り返ることができない
- 成功につながる方法を知らない

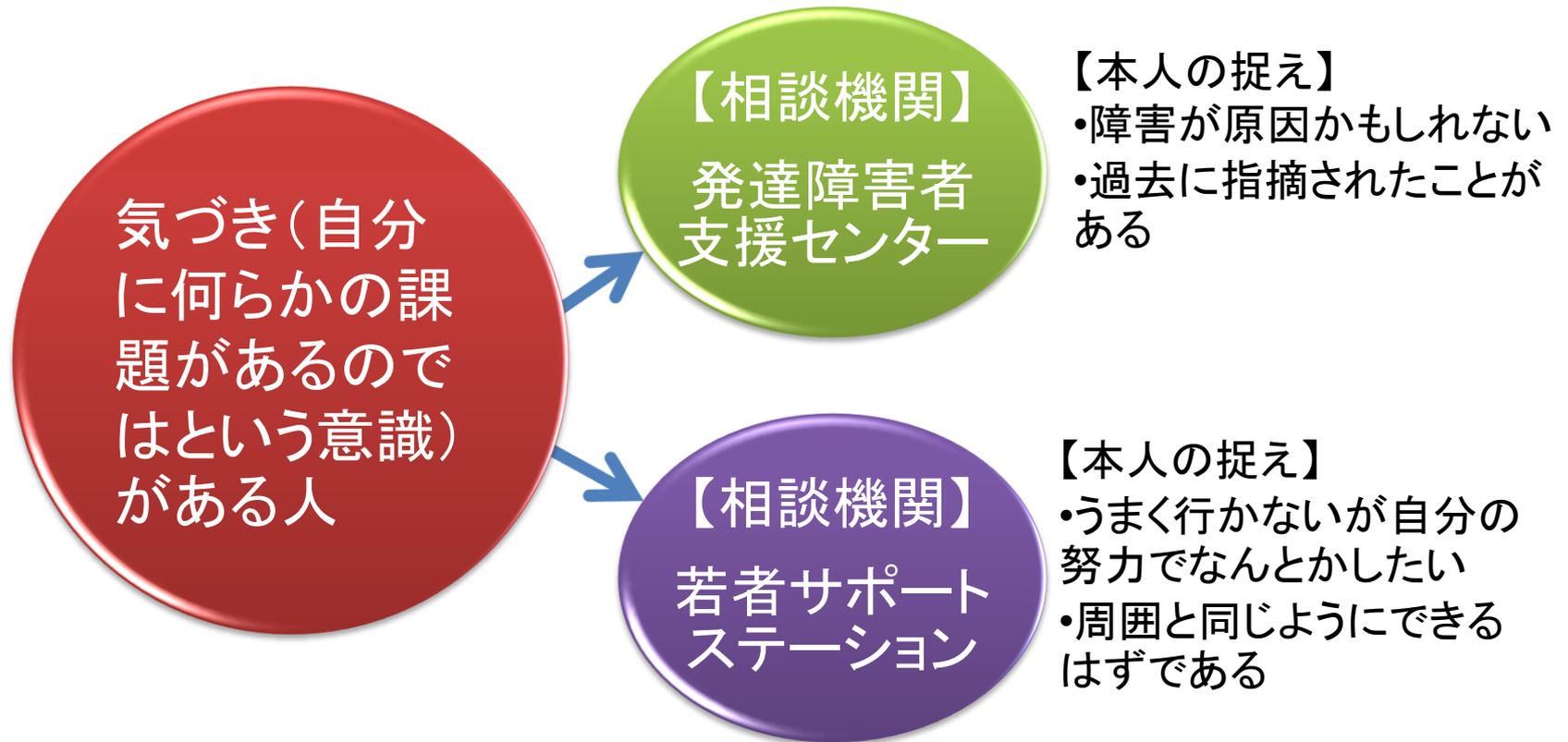


必要な支援

- 実際の職場を想定したさまざまな作業体験を提供し、自分の得意・不得意についての情報を得る
- 体験後、支援者と一緒に就労上の課題を振り返る
 - 自分の特性を理解し、必要な支援を整理する
 - 就労に向けての道筋を考える

横浜市の現状

相談機関では、実際の職場を想定した幅広い職業体験を提供するのに限界がある



就労検討部会における議論(平成22年度)

【就労を取り巻く課題】

【対応策】

資源薄

学生や高学歴のケースが活用できる資源が少ない

障害理解に向けた支援や課題整理をしてくれる資源が少ない

就労できない層が活用できる資源が少ない

事業・サービスの新設

作業活動や日中活動の場の新設

情報共有

支援機関があっても、支援につなぐ仕組みがない

どのような支援課題があるか見極めて、振り分ける仕組みがない

* 啓発や相談機能の強化
(市、区、サポステ、発達障害者支援センター、相談支援機関)
* 既存のチェックリストの周知と活用

世論形成が不可欠

発達障害の特性に配慮した機能が必要

職業適性や希望条件に合った障害者求人が少ない

定着支援の担い手が少ない

* 既存事業に新規機能の付加
* 支援体制の整備

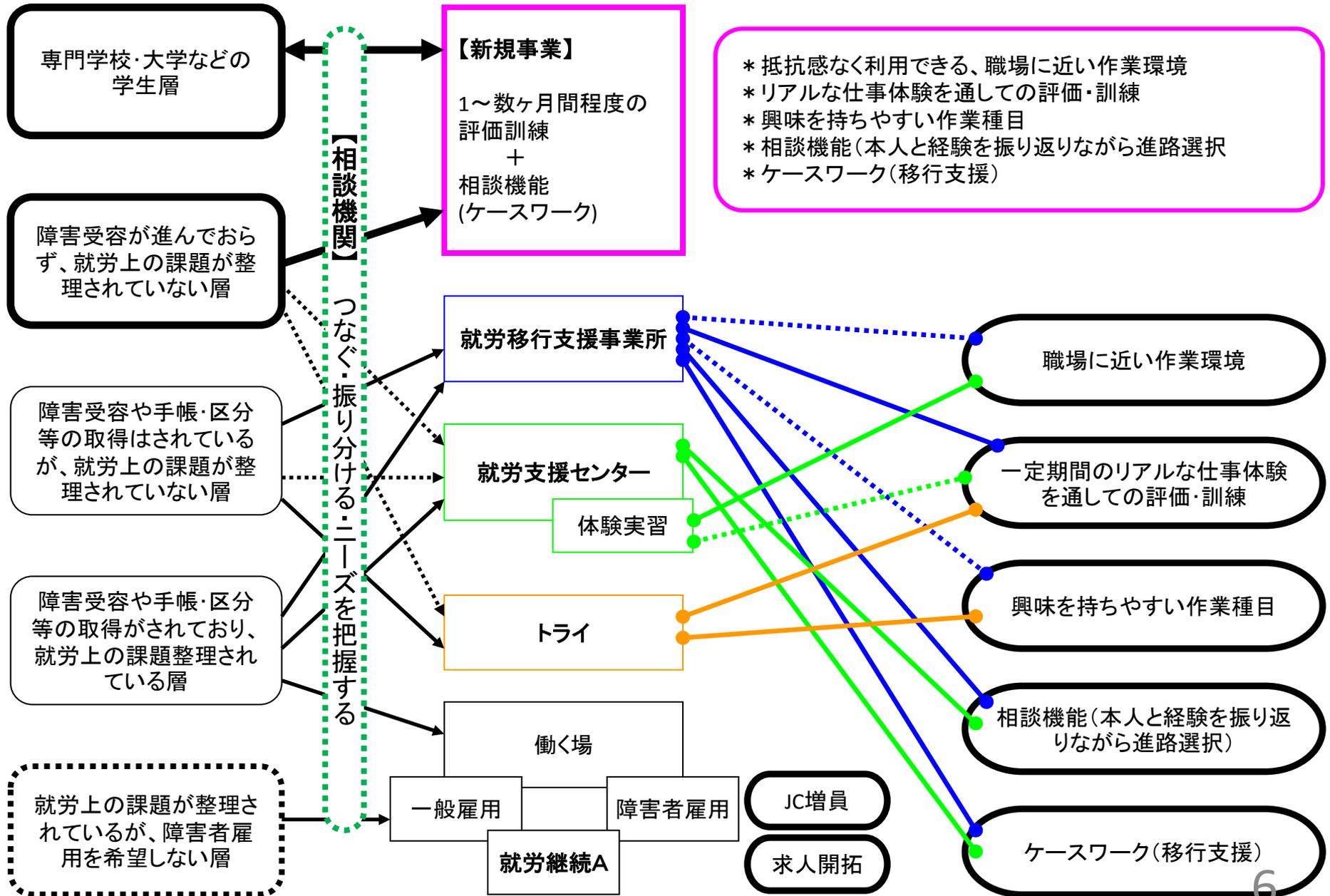
求人開拓

定着支援の人材を配置

【本人の状態】

【事業・サービス】

【求められる機能】

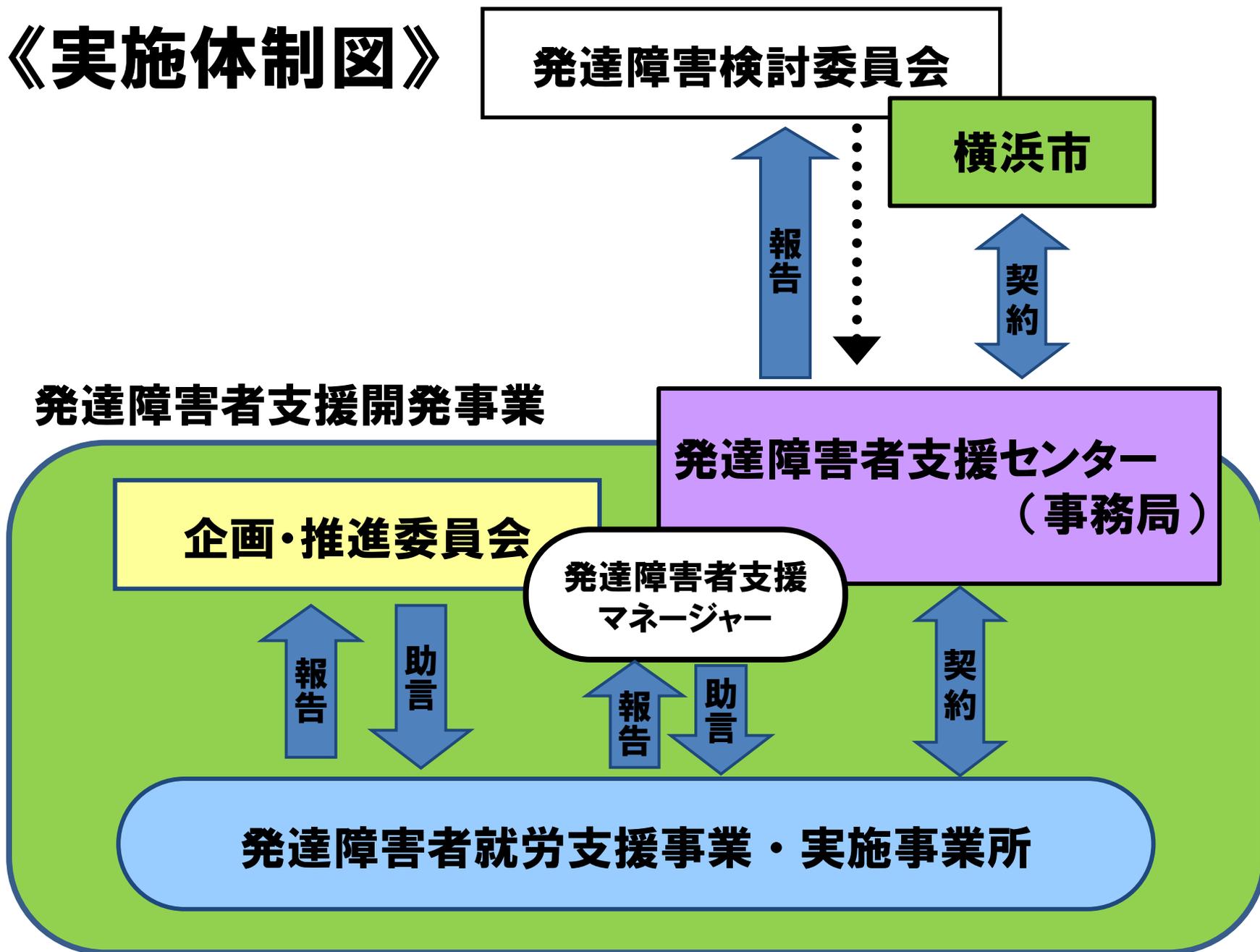


発達障害者就労支援事業

目的

- 横浜市発達障害者就労支援事業とは、既存の社会福祉サービスの利用が困難な発達障害者に対して、次の役割を担うことを目的として実施されるものである。
 - 発達障害者に対して、就労に向けた実践的な体験とその振り返りの機会を提供し、自身についての理解を深めることを助ける。
 - 発達障害者が、就労上の課題と必要な支援を整理し、就労(障害者雇用での就労等を含む)に向けての道筋を考えていくことを助ける。
 - 発達障害者が、基本的なマナーや職業行動を学習し、自身の職業準備性を確認するための機会を提供する。

《実施体制図》



利用までの課題

就労に向けて、
障害福祉サービスを
意識しない
場所での体験を通した
課題整理や
特性理解が必要

【利用者】

① 一般コース

発達障害者（疑い含む）
で就労を希望しているが、
自身の特性についての理
解が乏しい者。
（18歳～概ね25歳の者）

② 学生コース

専門学校または大学に
在籍している発達障害者
（疑いを含む）で、卒業後
に就労を目指している者。

事業内容

- ◆ 最長2年間の利用
- ◆ 3ヶ月を単位としたプログラム提供
（学生コースは4時間×10日間程度）

ビジネス
スキル
トレーニング

ワーク
サンプル
トレーニング

インター
シップ

就職
セミナー

【特徴】

- 職場に近い作業環境
- リアルな仕事体験を通しての評価
- 興味を持ちやすい作業種目



キャリアカウンセリング

本人と経験を振り返りながら
進路選択・ケースワークを行う

【受託機関】

企業、障害福祉団体、学校、若者支援団体等を想定

想定される成果

【一般コース】

自身の特性に合った
働き方を理解し、必要な
サポートを受けて働く

- 就労支援センター
- 若者サポートステーション
- 就労移行支援事業所
等と連携

【学生コース】

自身の特性に合った働
き方を理解し、卒業後の
進路選択や就職活動に
活かす

- 本人が所属する専門
学校・大学等と連携

一般コース

一般コース

- 以下のいずれにも当てはまる者
 - 発達障害の診断がある。または発達障害者支援センターもしくは若者サポートステーションが発達障害の疑いがあると判断。(知的障害を伴わない)
 - 就労を目指しており、就労を阻害するような治療中の精神症状等がない。
 - 自立支援法による就労移行支援事業所等、既存サービスの利用が難しい。
 - 18歳～25歳。横浜市内に住んでいる。

想定される対象者(例1)

年齢・性別	23歳男性
学歴・所属	4年制大学卒業。在宅。
診断・手帳の有無	手帳なし。診断あり(広汎性発達障害)。IQ96
受診・相談歴	幼少時に「すぐいなくなってしまう」「ことばがうまく発音できない」など育ちに気になることがあり、精神科を受診するも、何の指摘もされなかった。大学卒業後に精神科クリニックを受診し、広汎性発達障害の診断を受ける。現状では、通院や服薬の必要がないことから受診はしていない。
エピソード	AO入試で大学進学。3年次で卒業に必要な学科単位を取得するも、卒業論文が規程枚数に届かず、卒業が半年延びる。就活は、不採用通知が20数社を超えたところで、中止。 学生時代にアルバイト経験あり。倉庫での仕分け作業、部品の組み立て・検査、引越し、清掃パートなどだった。清掃パートについては、1年以上勤めたとのこと。工場での作業については、控え室に待機されられたままで終わったこともあるとのこと。
本人や支援者の希望	本人は、「コミュニケーションが苦手で必要なことも上手くいえない。今後どのように就職に向けて準備したらよいか分からないので教えて欲しい。向いている作業と向いてない作業を知りたい。」と話している。

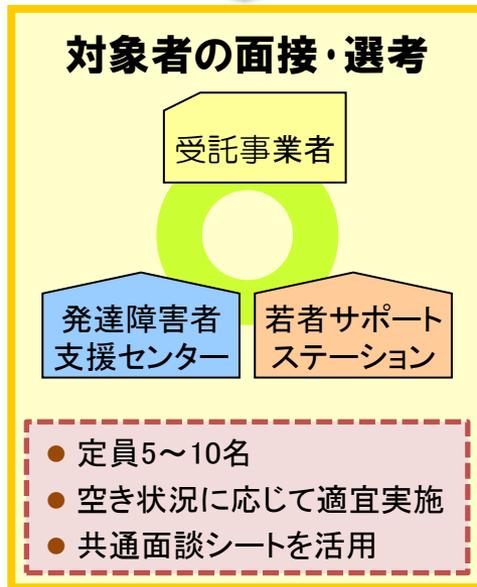
想定される対象者(例2)

一般コース

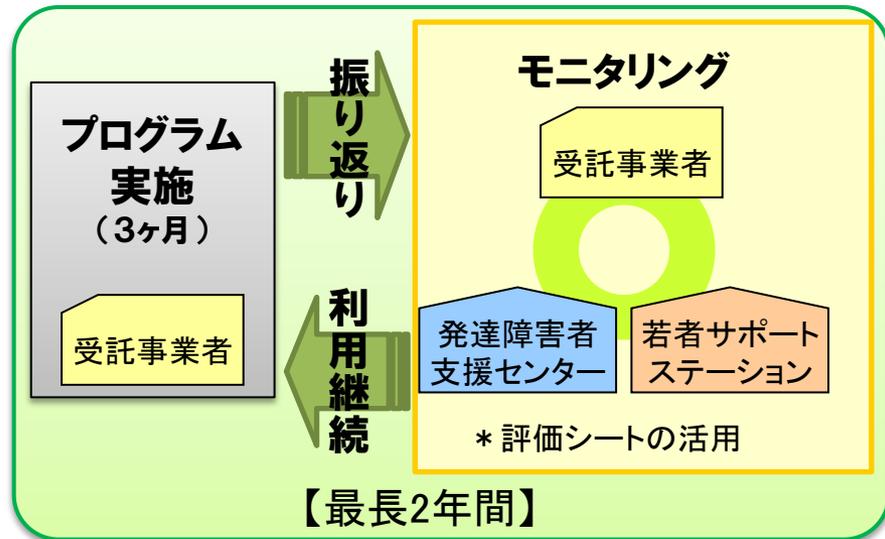
年齢・性別	25歳男性
学歴・所属	大学工学部卒業
診断・手帳の有無	手帳なし。診断あり(広汎性発達障害)。IQ80
受診・相談歴 エピソード	<p>大学工学部卒業後、A社にて就労していたが、作業指示が理解できない、作業の仕方が自己流になってしまいミスが多い、ミスを注意されると不適切な態度をしてしまう等の問題が生じ、会社側が発達障害を疑い専門機関への相談を勧め、発達障害者支援センターへ来談。</p> <p>その後、精神科を受診して境界性知能、広汎性発達障害と診断され、採用時点での業務遂行は困難ということで退職。</p>
本人や支援者の希望	<p>家族は発達障害に配慮され、無理なくできる仕事についてほしいと考えているが、本人は前職のCAD設計にこだわっている。</p> <p>本人は、コミュニケーションの苦手さや、社会性が欠如していることについて認識できていない(むしろ否定している)部分がある。</p> <p>仕事のイメージに関して限定的なものしかないため体験実習などを通してイメージを持てるようにするとともに、仕事の適性について本人と相談することが必要と思われる。</p>

対象者の選定

利用申込み

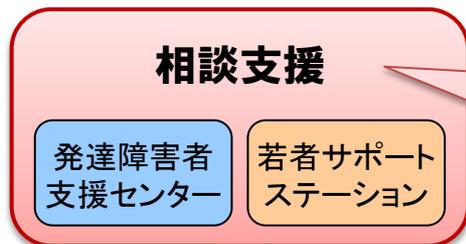


利用決定



利用終了

利用見送り



利用に至らない場合にも、必要な支援につながるしくみ

障害者雇用／一般雇用
就労支援センター／
就労移行支援事業所など

モニタリング

利用決定

- 利用決定者について、企画・推進委員会で報告し承認を得る。

1ヶ月

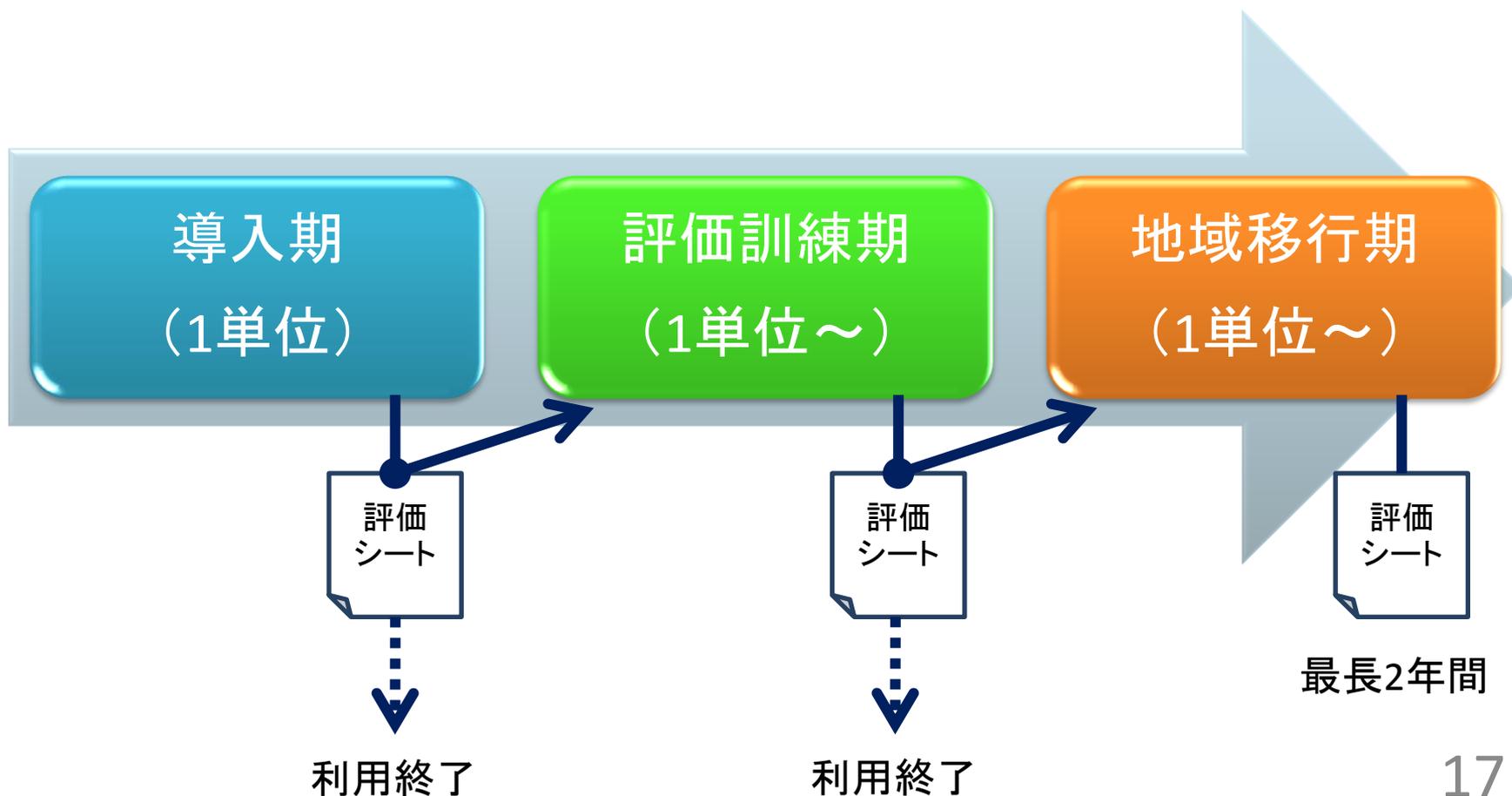
- 企画・推進委員会委員等の専門家によるコンサルテーション。
⇒本人のアセスメント、プログラム内容等に関する助言

3ヶ月

- 振り返りカンファレンスの実施。(事業所、発達障害者支援センター、若者サポートステーション)
- 必要に応じて企画・推進委員会の委員等の専門家が同席。
- 継続利用の適否の判断。
- 継続利用の場合、次クールの利用目的および計画立案。
- 利用終了の場合、「発達障害者支援センター」「若者サポートステーション」等の支援機関への引継ぎをおこなう。

3カ月を単位としたプログラム提供

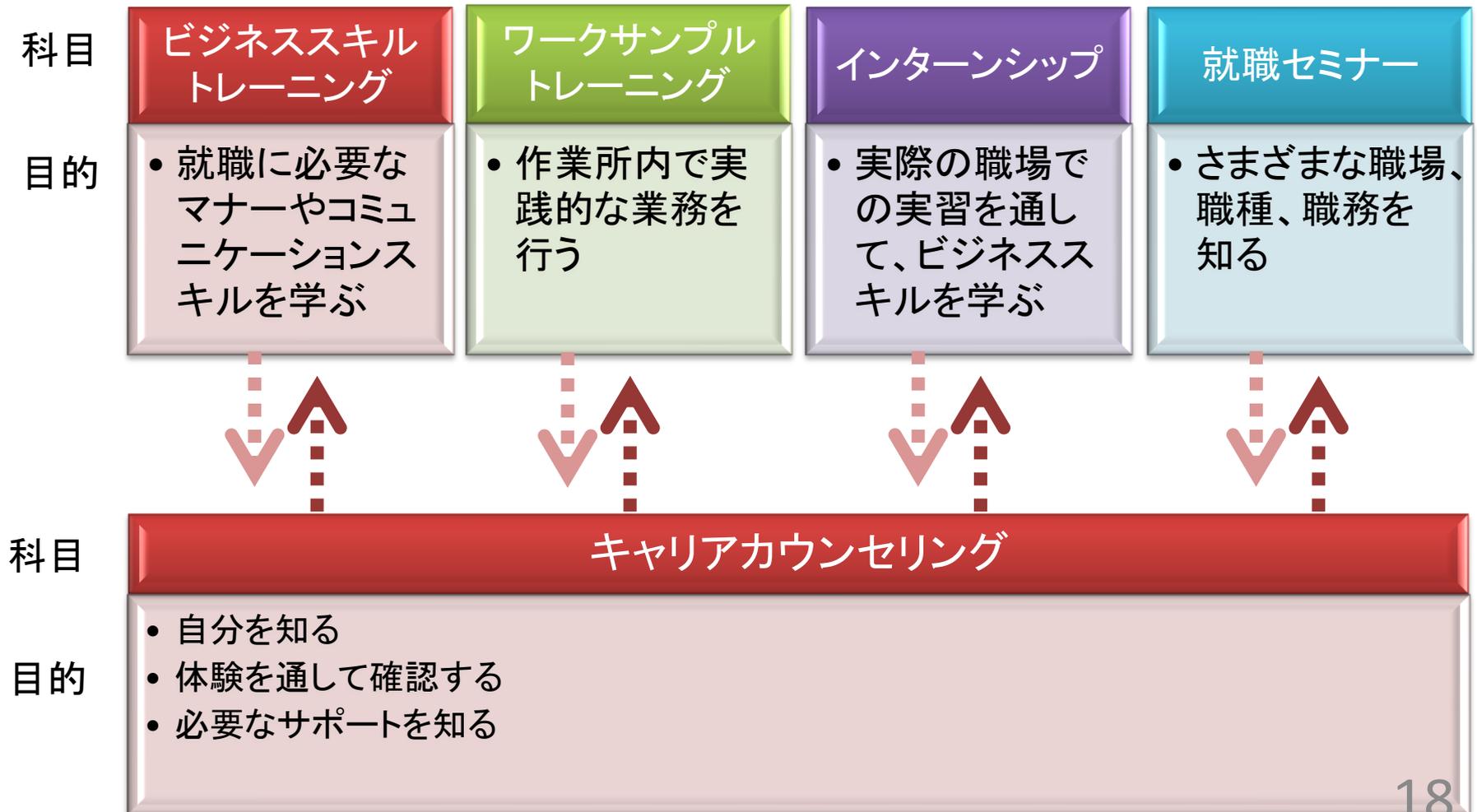
1単位終了ごとに振り返りを実施し、次単位の利用と個別支援計画を立てる



プログラム構成

一般コース

「しごと体験」と「相談」の組み合わせを通して、自分自身をよく知り、就労の準備を行う



ビジネススキルトレーニング

一般コース

基本的なマナーや職業行動を学習し、職業準備性を高める

達成目標	訓練内容
就職に必要なマナーやコミュニケーションスキルを知る	<ul style="list-style-type: none">• 報告・連絡・相談するスキルを確認する• 指示理解や学習のスタイルを確認する• 就労する上で必要なコミュニケーションスキルを確認する
実践的な作業場面を通して、職場で求められる振る舞いを知る	<ul style="list-style-type: none">• 職場で求められるビジネスマナーについて、実践的な作業場面を通して反復練習する• ワークサンプルトレーニングやインターンシップと組み合わせて実施する

<実施例>

- ビジネス基礎講座（「働く」とは、会社の仕組み、職場のルール・マナー）
- 職場でのコミュニケーションスキル（電話対応、接客、メモ取り、業務報告、業務連絡）の練習
- 職場でのソーシャルスキル（挨拶、謝意・謝罪の伝達、アイコンタクト、しぐさ、雑談での話題など）の練習

ワークサンプルトレーニング

職場を模した作業環境において、より多くの作業種目を体験する

達成目標	訓練内容
幅広い作業種目を体験する	興味関心のある作業以外を複数体験する
基本的な労働習慣を身につける	指示内容どおりに作業する(手順、時間、量、速度、質など)
得意・不得意を知る	<ul style="list-style-type: none"> •訓練により要求水準に応えられる作業内容を知る •避けた方がよい作業内容を知る

<実施例> 対象者が興味を持ちやすい作業種目を複数実施する

- 職業適性検査の実施(GAT-B、幕張ワークサンプル式など)
- OA事務(ワード・エクセルの操作、事務作業、応対など)
- 商品物流(入庫管理、検品、伝票処理、包装・梱包、出庫管理、運搬、ピッキングなど)
- 製造加工(製図、製造加工、組立など)
- 建物管理(清掃、備品・消耗品管理、営繕、植栽など)

インターンシップ

職場実習を通して、職場の要求水準を理解し、自分の就労準備状況を確認する

達成目標	訓練内容
職場の要求水準を理解し、自分の就労準備状況を確認する	<ul style="list-style-type: none">•労働習慣(連絡、ルールの順守、身だしなみ、健康管理など)が要求水準に達しているか知る•サービス態度(就労意欲、熱心さ、責任感、報告、質問、準備かたづけなど)が要求水準に達しているか知る•遂行状況(集中力、安定性、正確さ、丁寧さ、理解度、安全管理など)が要求水準に達しているかを知る•対人関係(連絡、報告、言葉遣い、挨拶、謝意・謝罪の表明、他者との共同作業など)が要求水準に達しているかを知る

<実施例>

- 対象者の興味関心に限定せず、就労準備状況を確認しやすい実習内容を設定する
- 就労するために必要な訓練や支援が明らかになるような実習内容にする

就職セミナー

対象者やその家族に対して、特性理解や支援の活用に必要な情報を提供する

達成目標	訓練内容
自分の力を知る	<ul style="list-style-type: none"> •自己管理の力を知る(スケジュール管理、金銭管理、感情・行動管理、整容など) •得意・不得意を整理する
企業情報を知る	<ul style="list-style-type: none"> •労働市場を理解する •企業の要求水準を理解する •就職者の体験話を聞く •就職活動の準備をする
制度を知る	<ul style="list-style-type: none"> •労働サービスや福祉サービスの情報を知る •診断の目的と手続きについて知る

<実施例>

- 企業見学会の開催
- 人事担当者やハローワーク雇用指導官などの職業講話の開催

キャリアカウンセリング

相談活動を通して、就労上の課題を整理し、就労に向けての道筋を考える

達成目標	訓練内容
職業に関する体験や課題を整理する	<ul style="list-style-type: none"> プログラムを通じて、課題や心配な点などについて振り返り、就労に向けての心がまえを知る
対人関係に関する経過や課題を整理する (就労に影響のある)心身の健康に関する経過や課題を整理する	
(就労に影響のある)生活に関する経過や課題を整理する	<ul style="list-style-type: none"> 自分の就労準備状況について知る

<実施例>

- 各プログラムを実施後、定期的に個別面談を実施する
- 対象者の自己分析や状況把握を日報に記載してもらい、他者評価と照らし合わせ、必要に応じて個別面談を実施する

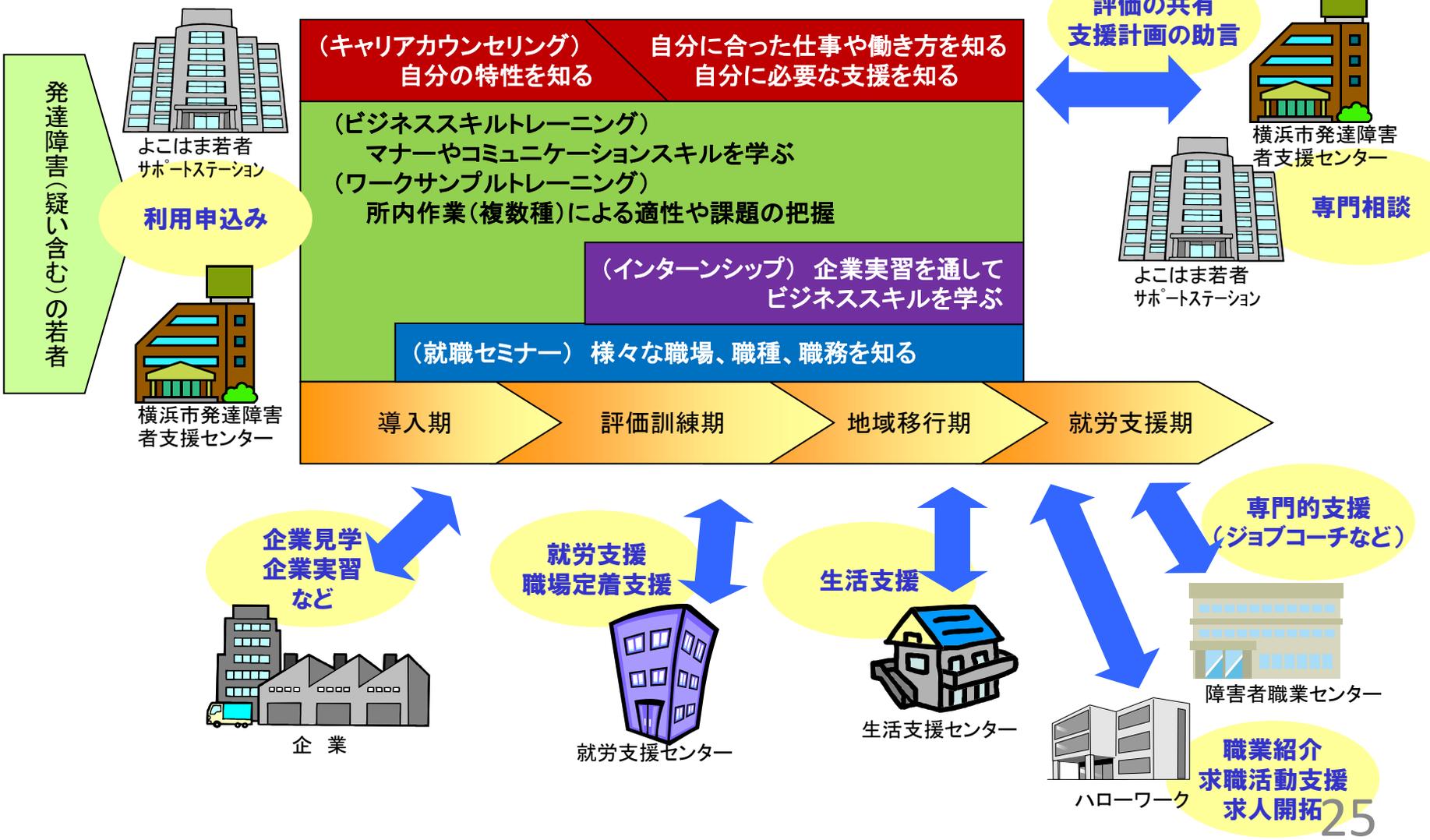
カリキュラム例（導入期）

月	火	水	木	金
ワークサンプルトレーニング	就職セミナー	ビジネススキルトレーニング	ワークサンプルトレーニング	ワークサンプルトレーニング
ワークサンプルトレーニング	就職セミナー	ワークサンプルトレーニング	ワークサンプルトレーニング	ワークサンプルトレーニング
キャリアカウンセリング	ビジネススキルトレーニング	ワークサンプルトレーニング	ワークサンプルトレーニング	ビジネススキルトレーニング

* 定期的にキャリアカウンセリングを設定し、各プログラムの振り返りをする

* ビジネススキルトレーニングはワークサンプルトレーニングや就職セミナーと組み合わせ、学習内容を作業場面でリハーサルできるようにする

地域支援機関との連携



学生コース

学生コース

(以下のいずれにも当てはまる者)

1. 発達障害の診断がある。または発達障害者支援センターもしくは若者サポートステーションが発達障害の疑いがあると判断。(知的障害を伴わない)
2. 卒業後に就労を目指しており、就労を阻害するような治療中の精神症状等がない。
3. 18歳～25歳。横浜市内に住んでいる。
4. 専門学校または大学に在籍しており、所属校へ評価結果を返すことができる。

想定される対象者（例3）

年齢・性別	20歳。男性。
学歴・所属	大学3年生
診断・手帳の有無	手帳なし。診断なし。
受診・相談歴	大学の就職課に相談をしているが、コミュニケーションが独特で相談が深まらないことなどから発達障害が疑われている。相談場面の様子からは企業面接での評価が高くないことがうかがわれる。
エピソード	アルバイトは単発のバイト4回だけで、働いた経験が少ない。インターンシップなどに応募するが不合格が続いている。
本人や支援者の希望	文章を書くことが好きなので、会社でも文章を書く仕事をしたいと話している。 本人も就職活動がうまくいかないことで困っているが、どうすればいいのかわからない。

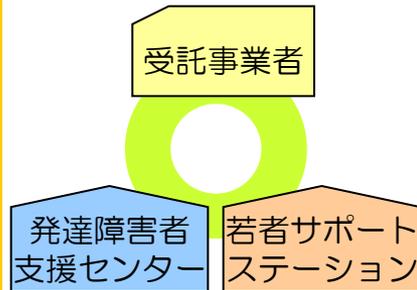
想定される対象者（例4）

年齢・性別	21歳。女性
学歴・所属	大学4年生
診断・手帳の有無	手帳なし。診断あり（広汎性発達障害）。IQ110
受診・相談歴	<p>幼児期に友達遊びができないことなどから、保健所へ相談したが診断には至らなかった。</p> <p>中学時代に学校への行き渋りがあり、教育相談センターへ相談し、発達障害の疑いがあると言われた。</p> <p>大学3年時、ゼミの発表がうまくできず、研究室に顔を出せなくなることもあり病院受診。広汎性発達障害と診断された。</p>
エピソード	就職は希望しているが、就職活動はほとんどしていない。
本人や支援者の希望	一般枠で就職できるか、障害者雇用を考えた方がいいのか迷っている。

対象者の選定

学生コース

対象者の面接・選考



- * 定員5名
- * 共通面談シートを活用

利用申込み

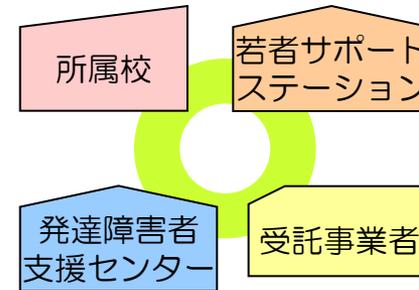
利用決定

プログラム実施 (全10回程度)

受託事業者

振り返り

評価の振り返り



* 評価シートの活用

利用終了

所属校を中心とした就労(進路)支援

所属校の学生相談室、キャリアセンター等の担当者の確認の上、申込書を提出

週5日×2週間
週1日×10週間など
学生が参加しやすい工夫をすること

対象者の選定

申込み

- 申込書を「発達障害者支援センター」「若者サポートステーション」「実施事業所」のいずれかに提出
- 申込書には、「所属校の担当者名」「利用目的、課題意識」などを記入

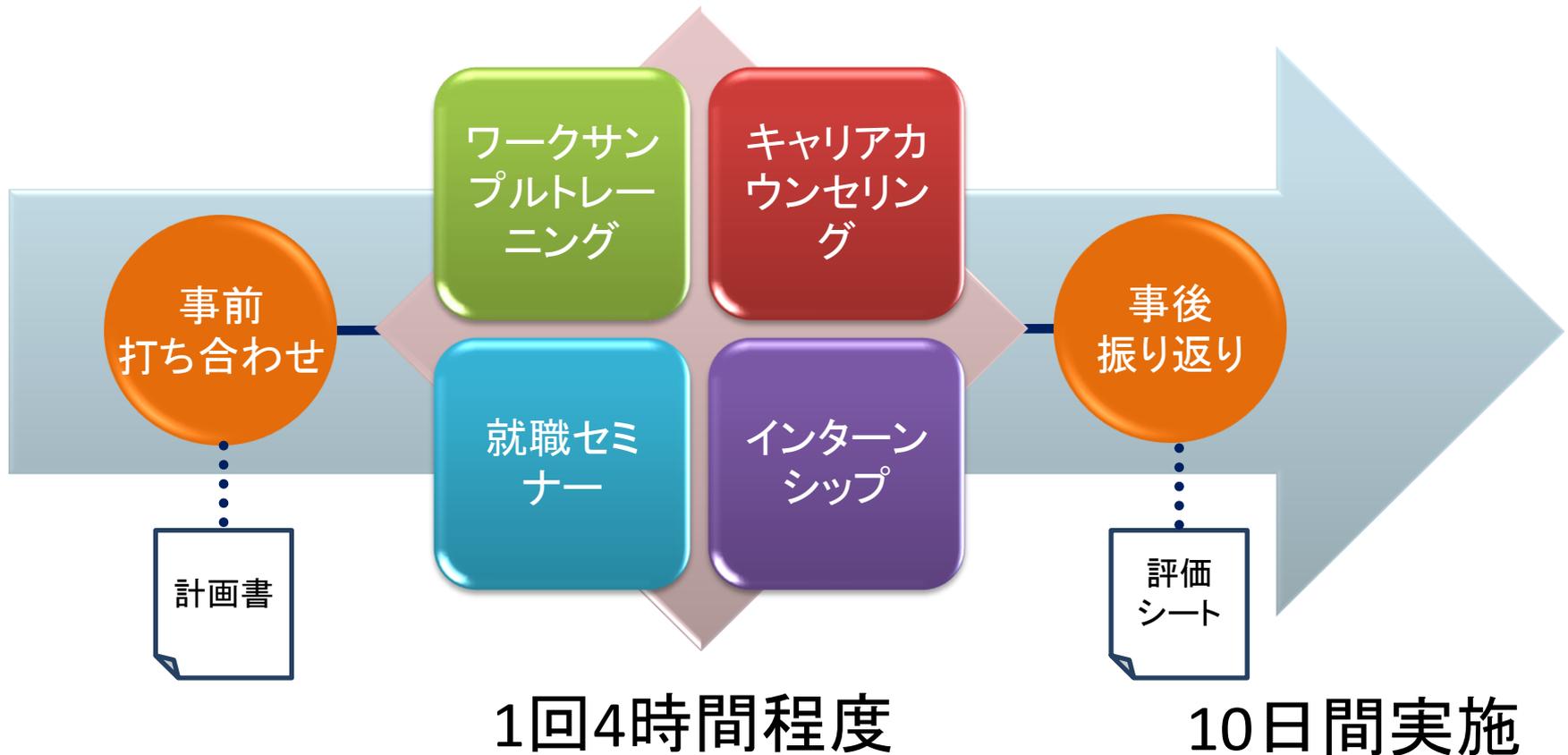
面接

- 「発達障害者支援センター」または「若者サポートステーション」の職員が同席。
- 受託事業所で実施。
- 比較検討できるように共通の面談シートによる聞き取りをおこなう。

選考

- 「発達障害者支援センター」「若者サポートステーション」「実施事業所」の3者で選考。
- 必要に応じて、企画・推進委員会委員等の専門家による助言を受ける。

3カ月以内に4時間 × 10日間程度実施



カリキュラム例

学生コース

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
オリエンテーション ・社内見学	ワークサンプルトレーニング ・入力データの照合	ワークサンプルトレーニング ・データ作成	就職セミナー ・企業見学	ワークサンプルトレーニング ・記入済データと関連諸法規との照合
計画書の確認	実習日誌記入	実習日誌記入	実習日誌記入	実習日誌記入
6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
ワークサンプルトレーニング ・清掃	ワークサンプルトレーニング ・発送作業	インターンシップ ・職場実習	インターンシップ ・職場実習	ワークサンプルトレーニング ・総務事務 ・経理事務
キャリアカウンセリング	実習日誌記入	実習日誌記入	実習日誌記入	評価シートふりかえり

* 実施前、中盤、実施後に面談を設定し、各体験の振り返りを行う

* 実習日誌を記入し、実施状況についての自己評価を行い、他己評価とのすりあわせを行う

地域支援機関との連携

